

# 理事長メッセージ

今年度は日本フロアホッケー連盟設立10周年の記念の年! たくさんの方々のご支援・ご協力のもと、フロアホッケーの普及を通じてインクルージョン社会を実現する活動が、全国各地で拡がり続けておりますこと、心より深く感謝申し上げます。

2005年に開催した「スペシャルオリンピックス(以下SO)冬季世界大会・長野」で、皇太子殿下並びに安川英昭大会実行委員長から「この大会をきっかけとして、知的障がいのある人々の社会参加が進み、誰にも開かれた、温かみのある社会が創造されることを希望します」とのご挨拶を受け、必ずそのような社会を実現する! と設立したのが、日本フロアホッケー連盟です。もともとはSO独自の競技だったフロアホッケーを、知的障がい者のスポーツとして限定することなく、すべての人が共に楽しむ「ユニバーサルスポーツ」として広く一般に普及し、年齢・性別・障がいの有無などの違いを超えた交流を通じて、相互理解を推進し、「インクルージョン(=包み込む)社会」を実現しようと活動を続けてまいりました。

日本フロアホッケー連盟設立10周年の年にあたり、皆さまにご報告したいことが3つございます。

一つは12月に長野で開催した「SO世界大会・長野開催、日本フロアホッケー設立10周年記念シンポジウム」です。パネリストに阿部長野県知事、(株)エフピコ社長 佐藤氏、SO2016新潟大会事務局長 久保田氏をお招きし、これまでの10年間の活動を土台として、今後どんな社会を目指すべきか、私たちが何をすべきか積極的な討論が繰り広げられました。お集まりの皆さまも、現状に満足することなく、気持ち新たに、さらなる発展と普及に努める強い意志を共有するきっかけになったと自負しております。

二つ目は11月の「バンクミケルセン記念財団栄誉賞」受賞です。「ノーマライゼーションの父」といわれるバンクミケルセン氏の財団から、私どものユニバーサルなスポーツ活動と、誰もが共に参加する大会実績をご評価いただきました。このことは活動に太鼓判をいただいたようで、団体としても、私個人としても、とても嬉しく思った一大トピックスでした。

三つ目は第10回全日本フロアホッケー競技大会が今年も東京で開催できたことでしょうか。東京での大会開催は、都連設立に向けた首都圏での活動基盤とその中心となる組織づくりのためにも不可欠だと思っています。複数県にまたがるブロック大会も関東甲信越・中国四国・九州の3地域で継続開催されております。各地のコミュニティーに密着した、その土地らしい大会色が出てきたことも楽しいサプライズではないでしょうか。フロアホッケーに関わるうちに、障がいの有無に関係なく、お互いのありのままの素晴らしさに気づき、優しく温かな気持ちが根づいていく事例はここではご紹介しきれません。

あらゆる違いを超えて共に楽しむ交流の輪が、インクルージョンの大きなムーブメントとなっていくことを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

引き続き皆さまの温かなご支援・ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。



— 特定非営利活動法人  
日本フロアホッケー連盟  
理事長 細川 佳代子